

[成果情報名] 少加温施設栽培「麗紅」の着果安定のためのジベレリンの散布時期と濃度

[要約] 着果が不安定な少加温施設栽培「麗紅」において、満開期に25～50ppm のジベレリンを散布することにより着果率が向上する。

[キーワード] 麗紅、施設栽培、着果、ジベレリン

[担当] 農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

「麗紅」は着花が非常に多いが、生理落果によりそのほとんどが落果してしまうため、生産が不安定となりやすい。そこで、着果促進を目的としたジベレリン散布の効果的な散布時期と濃度を調査した。

[成果の内容・特徴]

1. 「麗紅」の着果率は直花が少加温施設栽培、露地栽培とも約 1%と非常に低く、有葉花が 3～21%と年によって差がみられる（表 1）。
2. 開花期から開花直後のジベレリンの散布は着果率を高くし、特に満開期に散布することにより有葉花の着果が多くなる（表 2、表 3）。
3. 散布濃度25ppm と50ppm では着果率に大きな差はみられない（表 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 着果させたい部分の花や新しょうを中心に散布する。
2. ジベレリンの散布は特に有葉花の着果促進効果が高いので、できるだけ有葉花が着果しやすい12cm 程度の結果母枝を確保する。
3. ジベレリンは平成20年9月10日付けでかんきつ（温州みかん、伊予柑、不知火、サガマンダリン、ぽんかん、かぼす、ワシントンネーブル、日向夏を除く）の落果防止を目的とした使用について適用拡大登録がされた。なお、かんきつに対するジベレリンの適用は下記のとおりである。使用目的：落果防止 使用濃度：25～50ppm 使用時期：開花始め～満開10日後 本剤の使用回数：1回 ジベレリンを含む農薬の総使用回数：1回 使用方法：散布

[具体的データ]

表1 「麗紅」の直花および有葉花の着果率(%)

年度	作 型	直 花	有葉花	合 計
2006	少加温施設	0.7	3.7	1.1
2007	〃	0.5	21.0	3.6
2008	〃	0.6	4.1	1.1
2008	露 地	1.6	3.1	1.6

表2 少加温施設栽培の「麗紅」における50ppmジベレリンの散布時期と着果率(%) (2007)

時 期	直 花	有葉花	合 計
満開期	6.2	34.4	21.1
満開 5日後	2.8	26.6	9.4
満開10日後	7.2	20.5	7.7
無処理	0.5	21.0	3.6

表3 少加温施設栽培の「麗紅」におけるジベレリンの散布時期および濃度と着果率(%) (2008)

濃度 時期	25ppm			50ppm		
	直 花	有葉花	合 計	直 花	有葉花	合 計
開花初期	0.5	8.0	0.9	2.5	8.8	3.6
満開期	2.6	21.5	3.0	1.2	37.3	1.7
満開 5日後	1.9	3.7	2.0	3.5	2.1	3.4
満開10日後	3.0	7.0	3.8	2.8	8.3	3.1
無処理	0.6	4.1	1.1	0.6	4.1	1.1

[その他]

研究課題名：機能性に富む中晩生カンキツの高品質果安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2004～2008年度

研究担当者：林田誠剛